

電気学会技術報告(Ⅱ部)第134号(1982).

- 6) 齊藤幸男, 日野太郎, 電気学会誌38〔9〕113(1964)
- 7) 金子 剛, 小沢丈夫, 電気学会論文誌97A, 33(1977)
- 8) 絶縁材料耐熱性短時間試験方法調査専門委員会, 耐熱性短時間試験方法の検討(発生気体分析方法につ

いて), 電気学会技術報告(Ⅱ部)第329号(1990)

- 9) IEC 15B(S) 56(1977); IEC 15B(S) 76(1982); IEC 15B(S) 102(1986); IEC 15B(CO) 77(1988) (いずれも IEC 15B 委員会資料)

BC T 出版の危機的状況についての報告

(阪大理) 菅 宏

何人もの方から, 出した原稿がなかなか出版されませんが, どうなっているのでしょうか? という問合せがありますので, Bulletin of Chemical Thermodynamics の連絡窓口係として, その出版の危機的状況について報告する義務があると思われます。

以前にも本誌(15巻No. 2, 1988)でこの出版活動を報告しましたが, これは IUPAC I. 2 化学熱力学委員会の有志 G. Waddington および H. A. Skinner 両博士の提言と献身的努力で始められたインフォーマルな事業です。もともと研究対象の無駄な重複を避けるため, 測定は終わったものの未発表なデータ集として 1962 年に発足致しました。その後, 主として NBS の援助で前年度に発表された論文リストが収められるようになり, そうなると商業的価値が出てきて其出版社がそれを引受け, 我々はそれを購入して恩恵に浴してきました。

ところで NBS が NIST と名称を変え, 同時に大幅な組織変えがあつてから文献リストの編集サービスが出来

なくなり, そうなると出版社が完全に手を引いてしまいました。最近, Vol. 28 (1985 年版) が 4 年遅れで出版されましたが, この形式の最後の発行となったことは誠に淋しい限りです。その後の対応について I. 2 委員会で何度も議論を重ねてきましたが, 小田原評定に近いものです。結局, 原点に立戻って未発表データ集にしようという意見が多かったのですが, その経費の出所がなく, 先駆者の努力を再現しようとする熱意のある人は現われません。

編集委員長 R. Freeman 教授は出版の遅れを取戻したい気持ちはやるものの, 出版経費の適当な出所を誰も口に出さないの, 大変苦境に立たされております。30 年にわたって続けられてきた作業を途中で挫折させることは誠に忍び難いことです。我々も長い間その恩恵を受けてきたことを考え, 日本熱測定学会として何か出来ることはないかと模索を続けておりますが, この危機的状況に際して会員諸氏の建設的ご意見をお寄せ下されば誠に幸いに存じます。